研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-135		17-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Prevalence of Fetal Alcohol Spectrum Disorders in 4 US Communities.
アメリカ合衆国における胎児性アルコール・スペクトラム障害（FASD）の有病率

執筆者

May PA, Chambers CD, Kalberg WO, Zellner J, Feldman H, Buckley D, et al.

掲載誌

JAMA. 2018 Feb 6;319(5):474-482. doi: 10.1001/jama.2017.21896.

キーワード	PMID
胎児性アルコール・スペクトラム障害、合衆国、有病率、横断調査	29411031

要　旨

目的：

胎児性アルコール・スペクトラム障害（FASD)と、その細分類である胎児性アルコール症候群(FAS)、部分 FAS (pFAS)、アルコール関連神経発達障害（ARND)のアメリカにおける有病率推定を行った。

方法：

2010～2016 年に、アメリカの 4 地域（ロッキー山脈地域・中西部・西南部・南東部太平洋側)で、小学校 1 年生と保護者を対象として、顔面形成異常・身体発育・神経行動学的発達・胎児期アルコール暴露に関する詳細な実地調査を行った。対象者は、地域の人口規模別に学校・児単位でランダムにサンプリングした。臨床遺伝学等の専門家により FASD と細分類について診断し、全米有病率を統計学的に推定した。

結果：

6,639 人の子供が調査対象として抽出された(男児 51.9%、平均年齢 6.7 歳、母が白人の児が 79.3%)。FASD と診断されたのは 222 名(3.3%)で、このうち FAS が 27 人、ARND が 104 人、ARND が 91 人であった。推定有病率は、控えめな見積りでは 11.3～50.0 人/1000 人、多めに見積もると 31.1～98.5 人/1,000 人 となった。また、いずれの推定有病率も、ロッキー山脈地域で最も高く、中西部地域で最も低かった。

結論：

従来、アメリカの FASD の有病率は 10 人/1,000 人程度とされていたが、本調査により地域により大きな差があることが示された。